

オスプレイの米兵乗員の確認書(チェックリスト)を海岸で発見

昨年12月13日沖縄・名護でオスプレイが墜落大破した現場から18キロも離れた宜野座の海岸に、オスプレイの乗員が携帯する確認書 チェックリスト(「がほとんど無傷のまま漂着し、地元の人拾い、新聞雑誌等でも取り上げられました。)

この「確認書」はヘルメットと一緒に流れ着き、米

兵の氏名も書かれていたが、その米兵の生死も明らかにされていません。この確認書には、手書きのメモが書かれていて、200フィート(60メートル)という記述もあり、超低空飛行や危険な空中給油の演習を夜陰にまぎれて、午後9時過ぎに住宅地の周辺で行われていたのです。

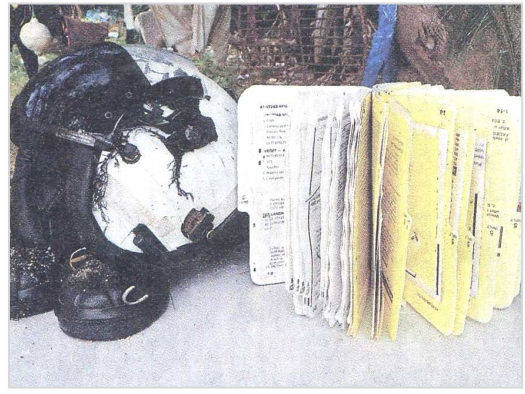
オスプレイは気象状況

だけでなく、構造上自らが乱気流を起こしやすく、給油そのものの難しさがあり、確認書には空中給油の給油機から伸びるホースなどが機体に接触する可能性があることが書かれ、給油機のホースが外れないときは、最短まで接近し、給油機側がホースを切断する「切り離されたホースがプロップローターを鞭打って破壊的な帰結を引き起こす」こと

横田基地問題を考える会

ニュース No. 33

連絡先
電話&FAX 0428-22-6273
ホームページ アドレス
Yokota-peace.sunnyday.jp



海岸に漂着したヘルメットと「確認書」

など、編隊飛行時の乱気流を意識し事故の危険性を前提にした詳細なマニュアルが記述されています。事実、このホースがオスプレイのプロペラを破壊し、海中のいたるところに部品を散乱させながら激突して大破しました。米軍は、その残骸の多くをサンゴ礁のリーフを引きずって海溝の中に放置、サンゴ礁は傷つき、細かい部品はかなりの広範囲に海の中に散乱し、炭素鋼がまき散らかされ海を汚し、漁民はいまでも海



2017/3/5 日米共同演習のため横田に5機飛来

の清掃に大変な状況です。かなりの広範囲に部品が散乱していることから、もしかしたら部品を落とすながら飛行していたのでは...という人もいます。だとしたら、オスプレイが人口の密集した住宅街を飛び回り、爆音や低周波音、いつ墜落するかもしれない、いろんなものが落ちてくるかも、という命の危険を感じて不安を抱きながら生活する日常が日本中で起ころうとしていることになりそうです。

日本政府は、こんな状況を日米同盟の強化の下に、アメリカ力追随、財界の利益優先のための軍事拡大で、沖縄も本土でも住民を犠牲にして平気であるのでしょうか。

私の思い

差別を無くし、平和を守りたい！

風間 実良さん

私の行動の原点は、差別をなくすことと、平和を守ることです。

現在関わっている障害者特に知的障害者は、自分の意見や権利を主張することも出来ない上、日々様々な差別を受けているのが現状です。こうした弱者を守れない社会は健全ではないと思います。

南アフリカへの反アパルトヘイト運動に参加する中で、アフリカの年と言われる1960年代、私は大学で考古学を学び、人類史に興味を持ち、フランス船で横浜から1ヶ月掛けて東アフリカに行きました。エチオピア・ウガンダ・

ケニア・タンザニア・ジブチなどを半年間旅行しました。ケニアで知り合った人の農村で3ヶ月間生活しました。1960年頃でした。牛馬や動力などは使わず、専ら人力での耕作でした。

帰国して茨城で百里基地の反対同盟の所で農村の人と一緒に1年近く農作業に加わりました。その時たまたま友人から障害者の存在を知り、支援するようになりました。

その間運転手のバイトをしていた時、国道16号線沿いに広がるベトナムへの出撃拠点である広大な横田基地を目にして、車にAUTONOWのポスターを貼って基地の周りを走りまわりました。

世界の人々の生き様と恩恵が忘れられない。

その後、福祉活動の一方でインド、アメリカ、中南米などに行き、現地知り

合った人の家に転がり込んだりして旅を続けました。フォークランド戦争中にはペルーのマチュピチュにも行きましたが、これまで見てきた世界の人々の生き様と恩恵を忘れられません。

その後も障害者の施設で働き、現在ボランティア活動もしていますが、確かに障害者に向けた法律などは以前よりも整備されてきたように見えますが、昨年の相模原のやまゆり苑での惨劇で見ると、障害者への差別はこの社会の底辺に深く沈殿していて、それが何かのきっかけで噴出してくる状況は、これからまだ続くのではないかと、大いに危惧しています。

どのような人であっても、皆と共に暮らす中で社会的に弱い立場にある人々に暖かい光が当たり、心から安心して豊かに生きていける平和な世の中に向けて行動していききたいと思っています。



10市2町と懇談

今年度後半にも配備されようとしているCV22オスプレイの横田配備問題などで、横田基地もいろいろな市民交流集会実行委員会では、基地近隣で騒音の苦情が多い立川以西の10市1町の全ての自治体と懇談しました。

防衛省からはオスプレイの情報が少ない、防衛省

の説明は十分納得できるものでない、という印象を受けました。インターネットで情報を入手するなど、職員の方々の苦勞が感じられました。

6者で合同宣伝活動

3月4日、オスプレイ配備反対連絡会が合同して、フロム中武角の交差点で第2回目の宣伝活動を行い、21名が参加し、58筆の署名が寄せられました。




南スーダンPKO日報を廃棄

ジャーナリストの男性が開示請求したのは、9月30日。防衛省は2ヶ月後に「既に廃棄してない」と回答。2週間後防衛相に報告。その10日後に電子データの存在を把握した。

ジュバ市内衝突事案について 別紙第12

項目	内容
事案の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近傍にて砲撃含む銃撃戦 ○ 項、に弾着 ○ が負傷 ○ 項、が ○ 激しい銃撃戦 ○ にてTK射撃含む激しい銃撃 ○ を確認 ○ 1310c宿営地5、6次方向で激しい銃撃戦 ○ 1315c宿営地南方向距離200メートル付近に砲弾落下
施設等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 警備段階 ○ 【施設等の対応】 ○ 指示 ○ 指示 ○ 指示継続中 ○ 【派遣施設等の状況】人員・装備品異状なし
国連の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【UNMISSの対応】 ○ UNMISSの態勢は のまま、変化なし ○ 【司令部要員の状況】 ○ 兵站・情報部隊：ジュバ市内宿舎にて待機中（異状なし） ○ 航空・施設部隊：UNトンビン内に待機中（異状なし）
邦人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、在留邦人全員の安全を大使館に確認
政府等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際活動部 ○ 外務省安全情報—ジュバ市内「Lv.3」→「Lv.4」（退避勧告） ○ 支援団司令部 TJNO部署



1ヶ月間、何をしていたのか？

統合幕僚監部は、黒塗りの部分を決めるのに時間がかかった」と説明しているが、廃棄したことで押し通そうとしたが、万一内部通報される心配を

した」のではないか？ 駆けつけ警護の新任務の閣議決定は11月15日。この新任務の運用開始は12月12日。この日に激しい銃撃戦、両勢力による戦

闘が確認、砲撃を含む銃撃戦、TK射撃 戦車による砲撃（含む激しい銃撃戦、砲弾落下などの記述がある。

防衛省はこれらをスムーズに進めるために、戦闘」が明記されている日報の公表を恐れたのではないか？ 情報を隠して危険な任務を与える政府・防衛省の行為は許すことができません。

戦闘↓武力衝突は憲法9条が問題になるから

稲田防衛相は 武器を使って殺傷する行為はあったが、法的な意味での戦闘行為ではない。国会答弁する場合、憲法9条上の問題になる言葉を使うべきでないから、武力衝突という言葉を使って「と欺瞞とも言える



3月5日 横田基地サウスゲート前

3月5日 サウスゲートでスタンディング

オスプレイ6機が飛来するこの日、基地南のサウスゲート付近で70名の人々が集まり、抗議のスタンディングを行いました。

**新しい署名を
始めます！**

今までの署名には2万筆以上の協力が得られ、防衛省等に提出しました。

新しい署名は衆議院議長・参議院議長宛の請願署名です。

請願趣旨はつきのとおりです。

- ① CV222オスプレイの配備を撤回すること。
- ② 普天間基地のMV22オスプレイの飛行を中止することです。

表現で言い逃れようとしており、閣僚としての資質を疑わざるを得ない。

外務省が「核密約」の非公開を要請していた

西日本新聞が入手した資料で、外務省が米政府に対し非公開を求めた文書は1987年4月の、①核兵器の貯蔵・配備などに関する事前協議②刑事裁判権③シラード事件④北方領土問題⑤安保改定の討議の5件。

①と②は現在も公開されていない。③④⑤は日本の要請が拒否され、公開された。

米公文書の機密解除審査部門責任者の一人D・カンパツ氏はわれわれは広範囲にわたる際限のない非公開要請には同意できない。

これは米政府による情報公開を外国政府が統制できるのかという根源的な問いを提起している。答えは明らかに「ノーだ」と強い不快感を示している。

C130JがC130Hに順次交代

最初のC130J輸送機1機が、3月6日横田基地に配備された。C130Hは横田基地に14機あるが、これから順次更新される。

新旧で任務に変更はないが、多くの人員や荷物を運べるよう改

良されており、基地機能がさらに強化される。

製造したロッキード・マーチン社によると、騒音は二割減る。機体は4.5メートル長くなり、輸送人員は36人増の128人になる。

国内では嘉手納(沖縄)と岩国(山口)に次いで三ヶ所目。



オスプレイ イエメンで墜落し、破壊

米中央軍は2月1日、トランプ政権になってから初めての対テロ急襲作戦を中東イエメンで行った。イスラム過激組織「アラビア半島のアルカイダ」(AQAP)を掃討するため、トランプ大統領が許可し、海軍特殊部隊が実施した。

米軍は作戦後、AQAP戦闘員14名を殺害し、米兵1人が死し、3人が負傷したと発表した。

戦闘で銃撃戦が激しくなったので、特殊部隊は攻撃ヘリやハリヤー攻撃機、MVオスプレイ2機を呼び寄せた。オスプ

レイ機はエンジン故障のため、地面に叩きつけられ、乗組員2人が負傷。別の米機がこのオスプレイを破壊した。

米軍とイエメンとは戦闘関係にはない。オスプレイ 木更津で定期整備を始める

防衛省は米軍普天間飛行場所属のオスプレイを、定期整備する拠点として、陸上自衛隊木更津駐屯地に定め、2月1日から始める。国内での定期整備は始めて。

最初の1機が1月30日に飛来した。

定期整備は同駐屯地内の格納庫で行われ、富士重工が担当。年に5〜10機程度を整備し、1機当たり3〜4ヶ月の工期で行う。整備期間中は、同駐屯地内でのホバリングや東京湾南部や相模湾上空での試験飛行なども予定。

F35ステルス戦闘機が岩国基地に配備

米海兵隊のF35最新鋭ステルス戦闘機が、米国以外で岩国基地に世界で始めて配備された。岩国配備のF35は垂直離着陸が可能。レーダーに探知されにくいステル

ス性能に加え、弾道ミサイルの発射を探知できる高性能レーダーを備えている。今回は10機が配備され、他の6機は8月に到着予定。

岩国基地にはFA18戦闘機やKC130空中給油機など60〜70機が所属。更に空母艦載機60機が移駐すると、120〜130機と東アジア最大の米軍基地となる。

また、普天間飛行場のオスプレイの本土への移動、訓練の拠点ともなっている。岩国基地は2、440メートルの滑走路に加えて、港湾機能も持つ岩国基地は総合基地としての存在感を更に増している。

米軍ヘリ 伊計島で不時着

1月20日、沖縄県伊計島の農道に不時着した。昨年11月に普天間基地に配備された最新鋭の攻撃ヘリAH1Zパイパー。

現場は島内のリゾートホテルからわずか600メートルの距離。あわや大惨事。近くの農業の女性は、部落に落ちたら大変なことになっていた。オスプレイが名護に落ちたばかり。一度とあってはならない」と強く怒っていた。



MC130J